

サイバー犯罪捜査Ⅰ・Ⅱ類
募集案内

2026

WORKS — サイバー局のお仕事 —

埼玉県警察生活安全部サイバー局はサイバー対策課とサイバー捜査課の二つの課に分かれています。

サイバー対策課ではサイバー犯罪の未然防止・広報啓発などの対策活動を行い、サイバー捜査課ではサイバー犯罪の検挙や技術的支援などを行っています。

対策



サイバー犯罪を未然に防止するために、講演やキャンペーンなどの広報啓発活動を行ったり、組織全体のサイバー犯罪対処能力を強化するための教養や指導などを行っています

捜査



ネットワークを利用した犯罪、不正アクセス事件やコンピュータウイルスによる事件等のサイバー犯罪を捜査し、犯人の検挙や事件の全容解明を行っています

技術支援



高度化・複雑化するサイバー犯罪の実態解明や組織的・国際的なサイバー犯罪の犯人の痕跡を掴むために、高度なフォレンジックなどの先端技術を活用した技術的支援を行います

CAREER — 採用後の流れ —

早期に捜査の最前線での活躍をしてもらうためにサイバー犯罪捜査Ⅰ・Ⅱ類採用者には特別なキャリアパスが設けられています

警察学校入校 Ⅰ類：6か月 Ⅱ類：10か月

通常の教養や訓練に加えて情報通信技術やサイバー捜査に関する特別授業を行います

職場実習 Ⅰ・Ⅱ類：4か月

警察署の地域課(交番)・刑事課で実習を行い、警察官としての基礎能力を身に付けます

初任補修科 Ⅰ類：2か月 Ⅱ類：3か月

職場実習での現場経験を生かした総合学習を警察学校にて行います
通常の教養や訓練に加えて情報通信技術やサイバー捜査に関する特別授業を行います

実戦実習 Ⅰ類：3か月 Ⅱ類：4か月

警察署の地域課・交通課で実習を行い、一人前の警察官になるための能力を身に付けます

サイバー捜査研修

サイバー局サイバー捜査課や警察署の生安・サイバー捜査係でサイバー犯罪捜査の基本を学びます

サイバー犯罪捜査部門

サイバー犯罪捜査を担当する部署での勤務が始まります

SKILL UP — 研修制度 —

- ◆ 民間企業のセキュリティ部門等への派遣研修
- ◆ サイバー犯罪捜査に特化した専科や研修
- ◆ トレーニング・ワークショップ等への参加(民間)
- ◆ 有識者による講演・勉強会の開催
- ◆ 民間資格試験の助成金支給



INFO — 受験情報 —

受験資格

Ⅰ類：大学卒業又は令和9年3月までに卒業見込みの人

平成3年4月2日以降に生まれた人(34歳まで)

Ⅱ類：Ⅰ類に該当しない人

平成3年4月2日から平成21年4月1日までに生まれた人(17歳から34歳まで)

※年齢は令和8年4月1日時点

資格：情報処理推進機構が実施する

情報技術者試験(ITパスポート、情報セキュリティマネジメント試験を除く)に

合格している人・採用予定日までに合格見込みの人

情報処理安全確保支援士となる資格を有している人・採用予定日までに有する見込みの人

試験項目

一次試験	論作文試験	700字から900字の記述式による筆記試験 Ⅰ類：論文 Ⅱ類：作文
	専門試験Ⅰ	情報通信技術等に関する知識・技術を問う記述式の試験
二次試験	身体検査	職務を執行するのに必要な身体検査(疾患・健康状態等) 視力・色覚・聴力検査
	体力検査	職務を執行するのに必要な体力について、腕立て伏せ・ 反復横跳び・握力を実施
	人物試験	個別面接
	専門試験Ⅱ	情報通信技術等に関する知識・技術を問う口述式の試験

※令和8年度の実験資格・試験内容です

INTERVIEW — 採用者の声 —

H30 Ⅰ類採用



私は大学で情報技術の勉強をしており、卒業後は勉強したことを活用できる職業に就職したいと考えていました。

採用後は警察庁に出向する等、国の技官として証拠品のデータ解析や事件捜査に従事しました。

サイバー犯罪捜査やデータ解析などで事件の証拠を発見し、被害者の救済や事件の解明に繋げることができるところにやりがいを感じます。

サイバー犯罪捜査採用は情報技術に関係する仕事を続けるという点で、他の警察官とは異なります。

一般の企業ではできないことを仕事にしたいと思い、警察官を目指しました。

サイバー捜査課では、サイバー犯罪の犯人を捕まえるためにマルウェア感染事案やウェブサイトの改ざん事案などの捜査を行っています。

警察は「堅い」「厳しい」というイメージを持っていましたが、職場の方々からのアドバイスやフォローもあり、楽しく仕事をさせて貰っています。

また、お休みが取りづらいイメージをお持ちの方もいると思いますが、しっかりお休みはとれますし、プライベートとの両立・充実もできます。

R2 Ⅱ類採用



Q&A

Q1 試験区分によって業務内容の違いはありますか

一般採用者は実習が終了した後、それぞれのベースで交番勤務をしたり希望などによって刑事課や交通課等の部署で勤務します

サイバー犯罪捜査採用者は実習終了後、サイバー犯罪捜査の基本を学んだり経験を積むための捜査研修を経てサイバー犯罪を担当する部署での勤務をします

Q2 一般採用区分との試験種目の違いはありますか

サイバー犯罪捜査採用区分では、基本的な情報通信技術等の知識や技術を問う記述式(一次)と口述式(二次)の専門試験があります

その代わりに一般採用区分で行われる一般教養試験が免除されるので自分の得意な分野で受験できるメリットがあります

Q3 文系の学部出身でも受験可能ですか

受験資格を満たしていればどなたでも受験することが可能です

サイバー分野に興味のある方や現在企業に勤めているが転職を検討している方も大歓迎です

Q4 法律の知識や体力に自信が無くても大丈夫ですか

警察官に採用された方の大半は法学部出身や武道経験者ではありません

そのため、警察官に必要な法律の知識や体力(武道も含む)は警察学校の授業の中で基礎から身に付けることができます

また、採用試験の体力検査で求められる運動能力はスポーツ選手のような高い能力ではなく、基礎的な体力や運動能力です

Q5 民間企業と比較してどんな魅力がありますか

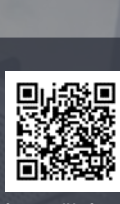
民間企業は社会のニーズに応じて製品やサービスの開発・提供・保守などが主な仕事だと考えられますが、警察の仕事は生活を脅かす犯罪を取り締まったり事前に犯罪を防ぐための防犯活動などが主な仕事になります

どちらも「人のために」ということは同じですが直接的に「人を守る」という仕事は警察官ならではの仕事です

また警察には様々な部署があるので自分に合った部署で能力を発揮することができます

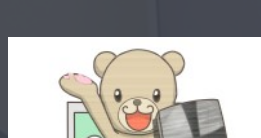
採用情報

試験日程・受験申込方法等の詳細は埼玉県警察ホームページをご確認ください



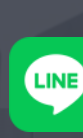
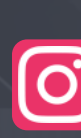
埼玉県警察HP

埼玉県警察サイバー局



埼玉県警察サイバー局では、インターネット利用に伴う犯罪の予防等のための情報発信をしています。

埼玉県警察採用センター



埼玉県警察採用センターでは、採用試験や各種イベントに関する情報を随時発信しています。